

令和6年能登半島地震における防災関係機関の対応状況について

資料9

	茅ヶ崎市	第三管区海上保安本部 湘南海上保安署	神奈川県企業庁 茅ヶ崎水道営業所	茅ヶ崎警察署
① 対応※した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・物資の在庫管理、整頓 ・要望品の要請、ニーズ把握 	<p>巡視船艇及び回転翼機による、捜索救助、人員及び物資の搬送、自衛隊給水車への給水、港の被害状況調査、測量船を用いた水深調査など</p>	<p>石川県輪島市における応急給水活動（加圧式給水車2t）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県警は、令和6年能登半島地震の発生に伴い、石川県公安委員会からの援助の要求を受けたことから、広域緊急援助隊ほか各部隊を順次派遣している。 ・活動内容は、救助活動の他、被災された方々への相談活動及び防犯指導、パトカーでの機動警戒等、多岐にわたる活動となっている。
② 対応※の中で難しいと感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・物資を要請するにあたり、避難所のニーズがわからない。→プッシュ便で来るものが避難所のニーズと異なることがあるため、倉庫に物資が溜まってしまふ。たまり過ぎないよう、こちらで発送することが必要。 ・ルート以外の施設への対応について(どういった施設まで可とするか等) ・プッシュ便で来る物資の内容が直前にならないと判明しない。 ・市町村等からの物資の管理について 		<ul style="list-style-type: none"> ・半島特有の地形ということもあり、通行止め等による大渋滞が発生（河北郡津幡町から輪島市まで4時間以上【通常であれば1.5時間程度らしい】） ・舗装路面の段差（5cm～10cm程度）が多数あり、走行には相当気を使う ・避難所の開所状況や避難者数の規模などの情報が無い（真に必要な給水量がわからない） ・多くの高齢者が応急給水の列に並び、持ち運びに苦労されていた（特に20ℓタンク） ・神奈川県からも給水バック（6ℓ袋）を持参し、配布したが不足している ・仮設トイレの問題（汲み取りが間に合わず、使用禁止されることがあるほか衛生環境も悪い） 	—
③ ②について改善等が必要と感じたこと	②のすべて	<p>現在も引き続き現場対応中のため調査及び取りまとめ中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舗装路面の段差について、「段差あり」や「走行注意」などの夜間識別できる看板がほしい ・SNS等による情報提供（道路状況・避難所情報） ・使用可能なトイレ（マンホールトイレ等）の設置と情報提供 ・被災地自治体職員も被災者であるため、「防災庁」のような国の機関が主導する方が望ましいのでは（被災地自治体職員に疲労の色が見られた） 	—
④ ②と③を踏まえて、市が被災した場合に実施した方が良くと考えられる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各避難所のニーズを災害対策本部、物資拠点へ反映させる方法を確立させる。 ・MCA無線での伝達以外の方法を構築する。 ・物資拠点のレイアウトを平時から作成する 		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急交通路に指定されている路線等は、安全に走行できるよう早い段階での補修 ・道路情報（通行止め・片側交互通行）などの情報提供（WEB） ・被害が大きいほど細かい部分に目が行き届かないので、自治会のような組織の協力（共助）が必要（平時から意思疎通を密にしておくことが大事） ・支援物資やボランティア等の物流をつかさどる物資調達管理調整員の育成 	—
⑤ その他、共有したい情報	<ul style="list-style-type: none"> ・志賀町は断水による被害が大きい。 →洗濯や仮設トイレの水、お風呂等 →期限切れの水を訓練などで配る以外に災害時の生活用水として残した方が良い ・口腔ケアの物資がなく、支援物資として災害時に手に入りづらいことから平素からある程度備蓄すべき。 ・在宅避難者に対する支援の方法を明確に決めておくべき →志賀町ではトヨタ自動車が物資の配達をしていた ・家屋の修繕等で使用するブルーシートの厚さ#2000は薄く使用できない。 ・また、屋根の修繕は業者にて行っており、修繕費用もかなり高いとのこと。 		<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ復旧工事等の調整・情報共有 ・ガソリンスタンドの営業状況（緊急車両への給油） 	<p>現時点まで、茅ヶ崎警察署からの被災地への人員派遣はなく、今後の人員派遣の有無も未定である。</p>

	茅ヶ崎郵便局	東京電力パワーグリッド株式会社	東京ガス株式会社	茅ヶ崎市立病院
① 対応※した内容	社員の派遣等の支援は特に行っていない。	高圧発電機車による電源救済。 高所作業車、建柱車による電力設備復旧作業。	—	医師・看護師：珠洲市総合病院 救急外来における診療支援（9時00分 から21時00分） 搬送患者や発熱患者に対する医療及び自衛隊ヘリに よる広域搬送支援 業務調整員：珠洲市総合病院 病院災害対策本部における支援 （8時30分から20時00分） 病院運営上必要とされる物資の調達及び調整 病院内各部署のニーズの確認 給水車の手配 組織系統の再確認、連絡先リストの確認・調整
② 対応※の中で難しいと感じたこと	情報収集	現地での移動に予想以上に時間がかかること。 被害が大きく、優先復旧先が多々あること。	—	○物資調達における連絡調整 担当職員が入れ替わり対応するため引継ぎ不足が発生した。 ○物資の搬入及び仕分け 市の体育館に、病院向けの支援物資と避難所向けの支援物資が集められていた ため物資の混同が発生した。 大量にかつ多くの種類が搬入された物資を整理する人員が不足していた。
③ ②について改善等が必要と感じたこと	情報の入手方法として身近な情報については防災無線や放送がある が、聞き逃したりすることがあるため、何か工夫が必要	道路啓開活動をいかに迅速に進められるかが早期復旧に繋がる。	—	上記のすべて
④ ②と③を踏まえて、市が被災した場合に 実施した方が良いと考えられる事項	地震や津波発生時の情報伝達方法（防災放送だけでなく聞き取りにくい ことがあるため）	復旧活動には移動路確保が重要なため、道路啓開活動について検討 を深めていきたい。	—	○対策本部では、指揮命令系統の確立および情報伝達ルートを確認すること により、常に更新された情報のもとで活動できる体制を整備する。 ○様々な所属の職員が入れ替わり対応することを前提に、情報共有の最適化を めざす。 ○本部以外の出先機関でも、情報共有がタイムリーにできる仕組みを構築す る。
⑤ その他、共有したい情報		今回は水が話題になっている。今後、小学校等のプールは閉鎖する と伺っているため、代替となるものの確保が必要かと思う。	口頭にて、地元都市ガス事業者の対応状況について説明いたします。	○現地の職員も被災者であり、参加できないことも多い。 ○2週間経過しても、子どもを預ける場所がない、インフルエンザやコロナ感 染などの理由で出勤できない職員も多い。

	茅ヶ崎市消防本部	京浜河川事務所	横浜国道事務所湘南出張所	横浜地方気象台
① 対応※した内容	<p>緊急消防援助隊として1月9日から1月25日まで石川県鳳珠郡能登町へ出動した。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪島市町野町寺山地区において行方不明者の捜索・救助活動 ・ 輪島市朝市の火災現場において、捜索活動 ・ 石川県北東部未検査地域の91戸安否確認及び地図作成 ・ 緊急消防援助隊の宿営地運営 	<p>令和6年1月6日(土) 北陸地方整備局富山防災センターへ照明車を派遣</p> <p>令和6年1月17日(水) 照明車が帰還</p> <p>令和6年1月22日(月) 北陸地方整備局富山防災センターへTEC-FORCE隊員を派遣</p> <p>令和6年1月30日(火) TEC-FORCE隊員が帰還予定</p>	<p>国土交通省TEC-FORCEとして横浜国道事務所より2班6名を石川県内に派遣。道路の被災調査を実施。今後も派遣を予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石川県庁（現地災害対策本部）へJETT（気象庁防災対応支援チーム）として職員派遣 ・ 金沢地方気象台及び東京管区気象台へ業務応援として職員派遣
② 対応※の中で難しいと感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震により通行できる道路が限られ、渋滞が発生したため宿営予定地への到着が大幅に遅れる結果となった。 ・ ライフラインが復旧しておらず、断水の影響もあり宿営地のトイレに支障があった。 ・ 食料は、出動した消防本部が持参したため不足はなかったが現地での調達に困難であった。 	—	<p>（派遣職員より）現地では降雪が多く、また半島であったことから移動道路が少なく渋滞が発生していたことから、調査箇所の移動に時間を多く要した。また気象状況により調査が思うようには進捗しなかった。派遣人員が2人/班の場合は、運転と作業を兼ねるため長時間や連続の勤務は厳しかった。</p>	—
③ ②について改善等が必要と感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路状況の情報共有が不足していた。通行の可否など道路状況を各機関が共有するツールがあると良いと感じた。 	—	<p>（派遣職員より）交代要員や役割分担を考慮した人員配置が必要と感じた</p>	—
④ ②と③を踏まえて、市が被災した場合に実施した方が良くと考えられる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレの問題が深刻であった。各消防本部が持ち寄った簡易トイレを設置したが、凝固剤、処分用のビニール袋等の備蓄が相対数必要である。 ・ 飲料水、生活用水についても、上下水道の復旧が遅れると不足することが予想される。飲料水の備蓄は必須である。 	—	<p>被災情報の収集とが重要。通れる道がどこなのかのマップ等があると効果的な支援が可能となる。</p>	—
⑤ その他、共有したい情報	<p>現地で感じたことは各機関の横のつながりについて、各機関の活動状況や保有している情報共有が少ないということであった。 （例 電気復旧状況、通行可能な道路の情報等）</p>	<p>対応状況はHPで公開してありますので、ご確認ください</p> <p>【関東地整】 https://www.ktr.mlit.go.jp/saigai/kyoku_dis00000883.html</p> <p>【京浜河川】 https://www.ktr.mlit.go.jp/saigai/keihin_dis00123.html</p>	—	—

	東日本電信電話株式会社 神奈川西支店	陸上自衛隊第4施設群	湘南地域県政総合センター	一般社団法人神奈川県トラック協会
① 対応※した内容	現地作業者の連絡用として、衛星携帯電話の貸し出し依頼が本社からあり、5台の貸し出しを実施した。	発災時における非常勤務態勢への引上げ	避難所運営（食料、生活物資受入、払い出し）	自治体と締結している災害時における物資の輸送等に関する協定に基づき、要請のあった自治体の救援物資を被災地に輸送する対応をしています。
② 対応※の中で難しいと感じたこと	特になし	特にありません	救助先の対応として女性の介助など女性職員しかできないこともある。 避難所運営では救援物資等の運び込みにおいて、一日数百回の荷物運びなどがあり、腰痛発生など肉体的に困難。1週間応援ですら結構へたってしまう。 おにぎりだけだと力が出ないので、肉休労働ある人はたんぱく質を摂取しないとつらい。 登山靴程度では靴内に浸水し、凍傷の危険があった。 個人スマホからアクセスできるので、ロゴチャットが職員間の連絡で役に立った。 住居はパン、カップラーメン、おにぎりのループでうんざりしていた、キノコ汁など炊き出しなどが好評。	①救援物資の量に応じたトラック（小型～大型）の手配②届け先（特に被災地周辺）までの安全な輸送経路の確認③物資を受入れる自治体での積卸し時間や方法等について、事前情報を受入れる自治体での実際の状況が異なっていた事（*県内自治体の担当者から受入れる石川県内の自治体担当者へ急ぎ直接連絡を取っていただき、積卸し作業を開始する事ができた）
③ ②について改善等が必要と感じたこと	特になし	特にありません	動きやすい長靴、コンビニの商品搬送のようなトレーを延々と作業するため滑り止め手袋が職員に必要である。 応援職員は個人対応としてビーフジャーキーなどのたんぱく源を持っていくなど要検討	①輸送する物資の寸法・重量・数量、積込及び積卸場所等の情報共有。②輸送に従事するドライバーの二次被災を防ぐための準備。③物資を発出する自治体と受入する自治体間との緊急連絡体制の整備。
④ ②と③を踏まえて、市が被災した場合に実施した方が良いと考えられる事項	特になし	特にありません	職員個人も過酷な環境でも対応できる靴など最低限の装備の準備は必要。 職員間の連絡ツール（ロゴチャット）は役に立つ。	①輸送する物資の寸法・重量・数量や積卸場所の情報等が無いと必要なトラックの選定が進められないため、要請いただく際は事前に把握いただくことが必要と感じます。②輸送に従事するドライバーの安全に対して、関心と配慮が必要と感じます。
⑤ その他、共有したい情報	特になし	特にありません	—	神奈川県企業庁の水道営業所での応急給水の初動対応を確認し、協働体制の強化を目的とした訓練等を進めている情報について（*県内他自治体での事例）。